



【各学校で学ぶ郷土芸能】  
 三股小学校…「棒踊り」と「奴踊り」  
 勝岡小学校…餅原地区の「奴踊り」、夢池地区の「俵踊り」  
 梶山小学校…梶山地区の「棒踊り」、田上地区の「俵踊り」  
 宮村小学校…小鷲集地区の「大太鼓踊り」  
 長田小学校…「棒踊り」と「奴踊り」  
 三股西小学校…新馬場地区の「棒踊り」と「奴踊り」  
 三股中学校…「棒踊り」と「奴踊り」

「教育とは」

# 子どもは地域の宝

子育て期を過ぎると、わたしたちは学校などの教育現場との接点が少なくなり、子どもたちのかかわりが少なくなり、子どもを育てるには、学校・家庭・地域が連携して取り組むことが大切だといわれています。今号では、伝統に触れ、また新たな伝統を作り出そうとしている子どもたちの取り組みを通して、地域と子どもたちのかかわりについて考えていきます。

## 郷土芸能を通して地域に触れるきっかけ

五穀豊穡を祈願するための踊りなど、人びとの生活に密接なかわりがあった郷土芸能。本町にも、各地域において郷土芸能が受け継がれています。

各小中学校では、こういった地域の伝統を大事にし、地域への愛情をはぐくむために、子どもたちが郷土芸能に触れ合う機会がつけられています。子どもたちがそれらに触れ、学び、その成果を運動会で披露します。

## 子どもたちと

## 地域の人たちのかかわり

運動会本番まで、子どもたちは練習を積んでいきます。各学校でそれぞれに練習が行われますが、今回「棒踊り」「奴踊り」を披露する長田小学校の練習風景をのぞいてみました。4～6年生の踊り子14人を指導するのは、大野棒踊り保存会の皆さん。子どもたちを指導するのは、平成元年から続いており、今年で22年目になるといいます。

本番の約1カ月前から練習を開始。保存会の皆さんは仕事を終えた後、夜の練習に臨みます。一日の仕事を終え、疲れた体で、それでもな



保護者も見守りの中で、本番前の最後の練習

卒業生も参加して後輩の練習相手に

仕事を終了後、練習にかけた保存会の皆さん

最初は振りを一とつづつ覚えることから始まった

